

栖本町の昔話

かつば伝説

昔々、大岩に固まれた測に、とても強く悪名高い河童が棲んでいた。その河童は力が強く、子どもや牛馬を川に引込んでいたり、通行人を魯かしたりして悪さをしてきた。時には若い衆に相撲を挑んで来ようが、誰も河童にはかなわんじゃった。

因り果てた大河内の人々は、村一番の力持ちで名高い、高山の伝吉どんに河童をこらしめてくれるように頼んだ。伝吉どんと自信はなかったが、村のために引き受けてくれたそうじゃ。伝吉どんは河童をこらしめてくれるよう頼んだ。ふと、思い当たることがあった。

いよいよ、相撲が始まるや、

伝吉どんは、河童に相撲の仕切りの儀を教えて、礼をさせた。

すると、河童の頭の皿から水がこぼれ落ちて、河童は「もう悪さはせんか」と言えはば、投げつけ、「もう悪さはせんか」と言えはば、

河童は「この川の逆さに流れん限り悪さはせん」と約束したのじゃつた。



油すまし

中河内地区の中ノ門にそのお地蔵さん「油すまし」が安置されています。

熊本県出身の民俗学者浜田隆氏の『天草島民族誌』(1932年刊)という書によると、「栖本村字河内と下浦村との境に草隔越」というところがある。あるとき、一人の老婆が孫の手を引きながらこれをとり、昔「油すまし」が出おったという話を思い出しことにやむかし油瓶さけた。

「ここにやむかし油瓶さけた」と老婆が言つて、「今も…出る…ぞ」と言って出てきた」と記されています。

また、木水しげるさんは、上から压されつぶれたお地蔵さまの「油すまし」が登場します。地元ではすべり道のお地蔵さんと呼んでいたそうです。

詳しい由緒など、実際には伝承はすでに失われていて、この石仏がなぜ「油すまし」と親しみを込めて呼ばれるようになったのかを知る人は、残念ながらいません。

妖怪がでたらしく。

「老婆が言つて、」「今も…出る…ぞ」と記されています。

また、木水しげるさんは、上から压され

つぶれたお地蔵さまの「油すまし」には、上から压され

小柄な姿の「油すまし」が登場します。地元ではすべり道のお地蔵さんと呼んでいたそうです。

詳しい由緒など、実際には伝承はすでに失われていて、この石仏がなぜ「油すまし」と親しみを込めて呼ばれるようになったのかを知る人は、残念ながらいません。

栖本町までのアクセス



かつぱの里 SUMOTO



栖本町の郷土芸能

熊本県無形
民俗文化財
【11月 第2日曜日開催】

栖本例大祭



大地を潤す河内川(かわちがわ)の清水、
自然豊かな山々が育む山の幸に内海でとれる海の幸。
ホタルもかっぽも笑顔で暮らせるふるさと 栖本。

特産品
デコポン、清見、甘夏、ミニトマト
インゲン、お茶、あおのり、ちりめんなど



工芸品
へのかつぱ
ストラップ

つい時や、落ち込んでいる時にひと見もし、おもわず笑顔になります。
これをつけておおらかな気持ちでいるしきっといいことがあるでしょう。



焼酎
酒くさ 蔵出し限定
栖本太鼓の響



へのかつぱストラップは「河童ロマン館」で好評販売中!